

351) 運命のいたずら

あの夏はプールサイドで 僕たち同じ夢を見ていた
まっ白いデッキチェアで 聴いていたのはカーペンターズ
過ぎ去ってゆく季節の中で 二人の愛を確かめ合った
君といたあの夏の日は もう永遠にめぐってこない
歳月のゆりかごで 僕たちは恋をして
運命のいたずらで 別々の道を歩んだ

テレビからふと流れ出す Yesterday's Once More の曲
あの夏に毎日聴いた カーペンターズが今流行ってる
まぶしいほどに美しかった 君の水着がふとよみがえる
この曲を今ごろどこで 君は聴いているのだろうか
歳月のゆりかごで 僕たちは愛し合い
運命のいたずらで 別々の道を歩んだ

あの季節の君の言葉が 僕の耳元で囁いている
10年後わたしたちって どこで何しているのでしょうか
10年後には必ず逢おうと 君は笑って指切りしたね
あの頃は別れるなんて 僕たちふたり思わなかった
歳月のゆりかごで 僕たちは夢を見て
運命のいたずらで 別々の道を歩んだ

10年の季節は流れて 10回分の夏を重ねた
あの頃の君の姿が 僕の脳裏に焼き付いている
今ごろ君がどうしているか 知るすべさえも今はないけど
サルビアのまっ赤な花が あの日のように輝いている
歳月のゆりかごで 僕たちは愛し合い
運命のいたずらで 別々の道を歩んだ